



メダル1号!!
W表彰台

銅メダル

加藤 泰浩(かとう・じょうご)1985年昭和60(2)月6日、山形県山形市生まれの25歳。小1で兄とともにスケートを始める。当初はショートトラックだった。山形中央高でインターハイ500m3連覇。05年11月のW杯ソウルレクシター大会で500m34秒30の世界新記録(当時)を樹立。08年トリノ五輪500m6位。W杯通算7勝。今季W杯は優勝と2位が各1回。1位65.65秒。

スピードスケート男子500mで銀メダルを獲得した長島。切り込み写真は銅メダルの加藤(ともに共写)

1時間15分遅れ整水トラブル何の

バンクーバー五輪
15日 第4日 スポニチ臨時支局
バンクーバー冬季五輪第4日の15日(日本時間16日)、スピードスケート男子500mで長島主一郎(27)が日本電産サンキョーが、1回目35秒10、2回目34秒2、3回目34秒87、合計1分9秒98で銀メダルを獲得。今大会の日本勢のメダル第1号となった。加藤条治(25)は1回目34秒93で3位につけ、2回目35秒07の合計1分10秒01で銅メダルだった。及川13位 太田17位

トリノの雪辱
日本の今大会メダル第1号はスピードスケート男子500mから誕生した。84年サエボ五輪銀メダルの北沢治浩に始まり、98年長野五輪では清水宏保がスピードスケート史上初の金メダルを獲得した日本の伝統種目。長島と加藤が輝かしい歴史の二ページを刻んだ。

長島は初出場のトリノ五輪は清水と加藤、4位に入った及川の陰に隠れた存在に終わった。悔し泣きした。一勝たない何と始まり。トリノの屈辱をきっかけに、翌シーズンから飛躍が始まった。06、07年のW杯は計4勝。昨季はW杯で3勝し、世界フリーント選手権では01年の清水以来8年ぶりの表彰台となる総合2位と、日本のエースに成長した。

北海道・池田高2年まで中長距離の選手だったこともあり、無駄のないストロークと、低く安定した姿勢の「世界一美しい」と呼ばれるフォームが武器だ。今季は500mだけに種目を絞り「五輪がある」2月に高レベルで切磋琢磨していくだけを考えて「せつさくま」した。と意識的に追い上げ、チームから、待望のメダリが。日本代表の今後、ストが誕生した。

長島 主一郎(ながしま・しゅいちろう)1982年(昭和57)4月20日、北海道中川郡池田町生まれの27歳。池田高・日大卒。日本電産サンキョー所属。3歳でスケートを始め、中学では野球部にも所属。今季のW杯500mは11月のヘルネンフェイン大会で優勝。W杯通算8勝。世界スプリント選手権は昨季総合2位、今季総合3位。1分7.70秒。

加藤 泰浩(かとう・じょうご)1985年(昭和60)2月6日、山形県山形市生まれの25歳。小1で兄とともにスケートを始める。当初はショートトラックだった。山形中央高でインターハイ500m3連覇。05年11月のW杯ソウルレクシター大会で500m34秒30の世界新記録(当時)を樹立。08年トリノ五輪500m6位。W杯通算7勝。今季W杯は優勝と2位が各1回。1位65.65秒。

及川 大樹(いかわ・たけし)1984年(昭和59)12月10日、東京都生まれの25歳。日本電産サンキョー所属。3歳でスケートを始め、中学では野球部にも所属。今季のW杯500mは11月のヘルネンフェイン大会で優勝。W杯通算8勝。世界スプリント選手権は昨季総合2位、今季総合3位。1分7.70秒。

太田 公博(おおた・こうひろ)1987年(昭和62)11月10日、東京都生まれの22歳。日本電産サンキョー所属。3歳でスケートを始め、中学では野球部にも所属。今季のW杯500mは11月のヘルネンフェイン大会で優勝。W杯通算8勝。世界スプリント選手権は昨季総合2位、今季総合3位。1分7.70秒。

バンクーバー五輪
15日 第4日 スポニチ臨時支局
バンクーバー冬季五輪第4日の15日(日本時間16日)、スピードスケート男子500mで長島主一郎(27)が日本電産サンキョーが、1回目35秒10、2回目34秒2、3回目34秒87、合計1分9秒98で銀メダルを獲得。今大会の日本勢のメダル第1号となった。加藤条治(25)は1回目34秒93で3位につけ、2回目35秒07の合計1分10秒01で銅メダルだった。及川13位 太田17位

トリノの雪辱
日本の今大会メダル第1号はスピードスケート男子500mから誕生した。84年サエボ五輪銀メダルの北沢治浩に始まり、98年長野五輪では清水宏保がスピードスケート史上初の金メダルを獲得した日本の伝統種目。長島と加藤が輝かしい歴史の二ページを刻んだ。

長島は初出場のトリノ五輪は清水と加藤、4位に入った及川の陰に隠れた存在に終わった。悔し泣きした。一勝たない何と始まり。トリノの屈辱をきっかけに、翌シーズンから飛躍が始まった。06、07年のW杯は計4勝。昨季はW杯で3勝し、世界フリーント選手権では01年の清水以来8年ぶりの表彰台となる総合2位と、日本のエースに成長した。

北海道・池田高2年まで中長距離の選手だったこともあり、無駄のないストロークと、低く安定した姿勢の「世界一美しい」と呼ばれるフォームが武器だ。今季は500mだけに種目を絞り「五輪がある」2月に高レベルで切磋琢磨していくだけを考えて「せつさくま」した。と意識的に追い上げ、チームから、待望のメダリが。日本代表の今後、ストが誕生した。

長島 主一郎(ながしま・しゅいちろう)1982年(昭和57)4月20日、北海道中川郡池田町生まれの27歳。池田高・日大卒。日本電産サンキョー所属。3歳でスケートを始め、中学では野球部にも所属。今季のW杯500mは11月のヘルネンフェイン大会で優勝。W杯通算8勝。世界スプリント選手権は昨季総合2位、今季総合3位。1分7.70秒。

加藤 泰浩(かとう・じょうご)1985年(昭和60)2月6日、山形県山形市生まれの25歳。小1で兄とともにスケートを始める。当初はショートトラックだった。山形中央高でインターハイ500m3連覇。05年11月のW杯ソウルレクシター大会で500m34秒30の世界新記録(当時)を樹立。08年トリノ五輪500m6位。W杯通算7勝。今季W杯は優勝と2位が各1回。1位65.65秒。

及川 大樹(いかわ・たけし)1984年(昭和59)12月10日、東京都生まれの25歳。日本電産サンキョー所属。3歳でスケートを始め、中学では野球部にも所属。今季のW杯500mは11月のヘルネンフェイン大会で優勝。W杯通算8勝。世界スプリント選手権は昨季総合2位、今季総合3位。1分7.70秒。

太田 公博(おおた・こうひろ)1987年(昭和62)11月10日、東京都生まれの22歳。日本電産サンキョー所属。3歳でスケートを始め、中学では野球部にも所属。今季のW杯500mは11月のヘルネンフェイン大会で優勝。W杯通算8勝。世界スプリント選手権は昨季総合2位、今季総合3位。1分7.70秒。

0120:4611210
24時間OK